

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2770302004		
法人名	特定非営利活動法人緑樹会		
事業所名	グループホーム緑樹		
所在地	大阪府寝屋川市梅が丘二丁目26番1号		
自己評価作成日	平成 27年 3月 21日	評価結果市町村受理日	平成 27年 5月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2770302004-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 27年 4月 13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 緑に囲まれた環境を活かし、職員1人1人が優しさや温かさの介護を実践するよう努力を続け、地域と共に、家庭的で安堵感のある生活環境創りを進めます。</p> <p>2. 利用者1人1人の人としての尊厳を守り、プライバシーを尊重して、その人らしく過ごせる支援を続けます。</p> <p>3. 利用料等、経済的負担の軽減を追求し、利用者や家族との信頼関係に基づいた、安心して安全な緑樹で在り続けます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>10年前、特定非営利活動法人によって設立された2ユニットのグループホームです。ホームは緑豊かな美しい田園風景の中に建ち、地域の人達に支えられ、市民感覚を持って様々な工夫をこらした運営をしています。理念通り地域に密着した、優しさや温かさの漂うグループホームで、家族の評価も受けています。利用者はチームワークの良い職員より、行き届いた介護サービスや美味しい食事、希望する個別の外出サービスを受け、安心して会話と笑顔のある生活を過ごしています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に、明るく生き活きとした、優しさと温かさの寄り添う、安心して暮らせるホーム創り」を理念とし、掲示、全体会議等で職員全員が理解を深め、一人一人が考えながら理念に添って行動出来るよう、取り組んでいる。	「地域と共に、明るく生き活きとした、優しさと温かさの寄り添う、安心して暮らせるホーム創り」を理念と定め、明示しています。職員は、定例の全体会議や日常の業務等を通じて方針を共有し、家族や地域の協力を得ながら、理念を介護サービスに反映させ、利用者は明るく生き活きと笑顔のある楽しい生活を過ごしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	月2回の自治会ボランティア喫茶への外出で入居者、職員共に地域との親交を深め、クリスマス会や餅つき大会等の事業所の行事のお手伝い、踊りやドッグセラピー等のボランティア活動に積極的に参加して頂いている。近隣に居住する職員も多く、運営推進会議も通じて、常に地域住民との交流を深めるよう努めている。	地域の自治会に入会しており、ホームの年間行事である餅つき大会には、自治会の方にもボランティアとして協力を得ています。また、自治会より杵と臼等、必要物品も借りています。ホームのクリスマス会には、近隣の子どもたちも参加し、一緒に楽しんでいます。月2回、自治会集会所で開かれている喫茶のサロンへ利用者と一緒に出掛け、地域との交流を大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	自治会の街かど相談所に来所された方の相談を受け入れる体制を取っており、運営推進会議にて個別のケースについての報告を通じて認知症についての理解を深めて頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議における検討事項を基に、その後の状況や取り組みを報告し、更なる改善に向けて意見交換をしている。今後の方針についても意見を頂き、必要があれば参加委員に協力をお願いする事もある。	2カ月に1回、運営推進会議を開いています。家族、地域包括支援センター職員、地域住民代表として3カ所の自治会長が出席しています。会議では、ホームで入会している自治会内の情報や取り組み等の報告があり、意見交換の場として活用しています。また、会議で得た情報や意見等は、サービス向上に活かしています。家族に参加の呼びかけを強化するべく、今年から議事録を送付する予定です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢介護室へ、書類の提出等の機会に可能な限り出向き、担当者に状況報告や相談をすると共に情報収集に努め、連携を深めている。	市の介護保険や生活支援の担当職員とは、報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケース会議での話し合いを基に、施設内外の研修にて、職員全員が身体拘束についての認識と理解を深めているよう努めている。家族様には職員と話し合う機会を出来るだけ多く作って頂き、ご理解とご協力を頂きながら身体拘束をしない、安全なケアについて検討し、実践している。	職員は、身体拘束防止委員会や研修会で身体拘束や人権について研鑽し、意識を高めて、身体拘束のないケアに取り組んでいます。フロア扉や玄関扉、エレベーターは日中開錠しています。外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外の研修受講を進めると共に、事例を用いて、施設内研修で検討、意見交換を実施し、日常より職員の意識の徹底を図っている。入居者と職員、職員同士の信頼関係の構築に重点を置く事で見通しの良い施設環境を作り、虐待防止に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に入居者の成年後見人となっている司法書士と連絡を取りながら、不明な点は逐一確認することで制度への理解を深め、ご家族に説明できる知識を得るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分な時間を作り、解約の条件も含めた説明をする。家族様の疑問に一つずつ答えながら不安を取り除き、理解を得られるように努めている。改定の際には、運営推進会議でも意見を頂き、慎重に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員全員が入居者と日々コミュニケーションを深め、家族様の来訪時には近況報告をし、話しやすい雰囲気、関係作りに努めている。家族様へ郵送でのアンケートも実施し、要望に対してはすぐに検討し、可能な限り反映している。</p>	<p>玄関には、意見箱が設置してあり、利用者から食事の味付けや、献立に関する意見が入っていることがあります。管理者や職員は、家族の来訪時に近況を報告し、できるだけ意見や要望が聴けるよう、雰囲気づくりを心掛けています。また年に1回、家族アンケートを実施し、意見や要望については、可能であればすぐに実行しています。検討が必要な内容に関しては、会議等で話し合い、反映できるよう努めています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に事業所負担での懇親会を実施する等、日常的に職員とのコミュニケーションを大切にすることを心がけている。会議の際にも積極的に職員の意見を聞く機会を設け、一つ一つ検討したうえ、対応している。</p>	<p>管理者は、定例の全体会議や日常の業務で職員の意見や提案を聞き、話し合っています。法人も協力的に対応し、浴場の設備改善や居室のレイアウトの変更、職員の休憩室の改装等が実現しています。管理者は、職員同士のチームワーク向上に努めており、職員の退職も少なく、家族の評価も得ています。職員は、定期的に事務長や管理者と面談をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常の職員同士のコミュニケーションを重視し、全員が楽しんで仕事ができるよう「職員の和」を大切にしている。職場環境の問題点、要望等に常に耳を傾けるよう努めると共に、勤務実績・年数を考慮した給与設定や、個々人の家庭環境に配慮した勤務シフトを提供するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の年間研修計画を基に、大阪府社会福祉協議会研修センターや寝屋川市の研修に参加できるよう努めている。又、一人ひとりの力量に応じた施設内でのOJT、全体の質の向上を目的とした合同会議での教育研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域団体での交流や、研修による施設実習にて、他施設との交流を深め、他施設と兼務している職員や、施設実習にて当施設に来て頂いた方の勤務先との交流を進めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係者や家族様より情報を事前に収集し、ご本人からも、よく話を聞く機会を作り、時に見守り、相談もしながら信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安点、問題点を聞き、解決策を見つける為の話し合いを日常的に心がけている。初期段階では、特に連絡を密にし、より良い関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の介護内容、経済的負担等の希望条件を考え、様々な角度からご本人、家族様にとって善いと思われるサービスを勧めることを前提とし、当ホームがそれに値すると思われる場合には、全力で受け入れ、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを尊重し、生き生きとした生活が出来るよう支援することで、職員もエネルギーを頂いている。人生の先輩として接する事で意見やアイデアも頂きながら、家庭的な環境で支え合う関係づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や、お花見会等への参加を家族様に呼びかけ、疎遠であった家族様には、少しでも関係を近づけて頂けるよう努めている。ご本人の希望による電話・外出・帰宅に関しては、常に協力を呼びかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	挨拶状や年賀状等、手紙でのコミュニケーションを支援し、知人等への電話での会話も支援しながら、先方が気軽に来訪して頂ける環境作りに努めている。	職員は、利用者が家族との約束を果たせなかった場所や懐かしい商店街を訪問できるよう、支援しています。また、自宅で長期外泊する等、利用者の思いを実現し、利用者が馴染みの人や場所等、関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が共同生活において、掃除・洗濯などに関して助け合い、協力しやすい環境と雰囲気構築し、ユニット間の移動を自由にして頂く等、利用者同士の関わり合いが円滑になるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院している退居者へのお見舞いや、退居者の訪問の受け入れ、退居後に入居者の写真を届けるなど、従来通りの関係を保ちながら、積極的に継続した支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、会話を交わし、ご本人の表情や行動に注意しながら関わり、思いの把握に努めている。記録や家族様の意見も参考に、ご本人の気持ちに近づけるよう、職員全員が努力している。	職員は、毎日の暮らしの中で、利用者から聞き取った思いや意向を記録し、話し合っています。居室に畳を敷いたり、編み物や裁縫の好きな方が居室でハサミや針、編み棒を保管したりする等の支援を行っています。また、昔行けなかった場所へ行くことも介護計画に反映し、実現しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居直前の調査により、以前の生活スタイルを出来る限り変化せずに生活できるように家族様、ご本人から情報を集め、ご本人の意志を尊重した居室作り、生活作りが継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動について些細なことでも記録に残し、状態が安定しているか、小さな変化も見逃さないよう、常時見守っている。記録だけでは伝わりにくい内容は、職員間で逐次、口頭にて情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日常にご本人、家族様からの意見や要望を聴く機会を積極的に設け、看護師との相談、全体会議やケース会議で検討している。ケース会議では参加職員を毎回入れ替える事で多様な意見を取り入れ、変化に対応しながら固定化しない介護計画作成に努めている。</p>	<p>介護計画は6ヵ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。計画作成担当者は、ケース会議で職員と共に利用者の状況を確認し、記録しています。また、3ヵ月毎にモニタリングを実施し、介護計画の見直しにつなげています。しかしながら、職員は介護計画に沿ったケアの実践に向けて、モニタリングによる記録が十分に実施できていない状況です。</p>	<p>介護計画の個別援助項目について、職員へ周知徹底するよう、モニタリングを記録しやすい様式にすることが望まれます。徹底策の一例として、利用者毎の日報用紙に介護計画の援助内容を盛り込み、実践内容を計画と関連付けて、日々記録するなどの方法を検討されてはいかがでしょうか。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の気づきやケアに対する効果を細かな点まで記録し、変更点は連絡ノートにて速やかに職員全員に周知し、実践している。ケース会議にて、記録や職員からの情報を基に話し合い、介護計画に反映している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご本人や家族様の状況の変化や、要望に添った柔軟な対応を心がけ、常に新たな可能性を模索しながら、一人ひとりに合った支援に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道教室への参加や美容院での整髪、小学校行事の見学に出かけたり、施設行事ではボランティア協力を地域より頂いている。また、消防署や近隣病院との連携を強める等、地域資源の活用を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族様の希望するかかりつけ医に、家族様と協力して通院・受診を行っている。職員より、日々の状況の記録をお渡しし、普段の状況を報告している。往診医とは、時に携帯電話にて連絡し、緊急時の医師の来訪、迅速な入院の手続きを行っている。	家族の承諾を得て、大部分の利用者が協力医療機関の医師から月2回の往診を受けています。また、訪問看護ステーションと医療連携し、必要な看護を受けています。協力医療機関と連携して、夜間や緊急時の対応についても体制を整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、概ね週1回の定期訪問や緊急時の電話相談・訪問が可能な体制となっている。また、協力医療機関の担当医に直接看護師から連絡して頂くことで、より適切な健康管理を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との協力体制を日頃から築き、入退院時には円滑な情報交換や相談を行い、常にご本人の状況を把握できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」に基づいた説明を実施し、その後も職員、家族様を含めて当ホームの現状の把握や、出来ることを話し合い、主治医・看護師と相談を重ねながら、重度化に向けての考えを共有している。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を家族に説明し、看取りの実績もあります。利用者が重度化した場合は、できるだけホームでの生活が続けられるよう、状況の変化とともに、利用者や家族、医師、看護師、職員間で話し合いを行い、方針を共有しながら対応していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にAEDを設置し、職員が消防署の救命講習に参加できる機会を設け、事故発生時の対応について学び、実践できるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「防災マニュアル」を作成し、年2回、職員、入居者参加の避難訓練を実施している。運営推進会議を通じて、周辺自治会の協力もお願いしている。	年2回、消防署の指導・承認のもと、周辺住民にも協力を得ながら、夜間想定を含めた自主火災・災害避難訓練を実施しています。災害時における、食料と水の備蓄を実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格尊重を重視した、日々の言葉遣いや対応についてマニュアルに記載している。職員各自が責任を持って実践できるよう、逐次、指導・教育をしている。	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように配慮して、丁寧でやさしい雰囲気をもって接しています。職員は年間計画に従い、事業所の接遇や人権の研修を受け、意識の向上に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	ご本人の理解度、判断力等、現状に即した形で希望を把握し、入浴、食事、行事参加等、常に問いかけの言葉遣いで自己決定を促すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムに主眼をおいた生活を重視して、コミュニケーションを大切にしている。押し付けない、強制しない態度と言葉遣いで接し、臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に合った、その人らしい服装を常に心掛け、町内の理・美容院の利用、施設内でのヘアカットや染髪、簡単なエステ、お化粧品などを入居者各々が楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には入居者の要望を可能な限り取り入れ、畑と一緒に採った野菜を料理に使用することもある。一週間のメニュー表を掲示し、楽しみにしてもらっている。	食事の場であるリビングは、緑や街並みが見渡せて眺めが良く、明るい造りになっています。横に作られた広い台所からは、料理を作る音や、お味噌汁のにおいを感じられます。利用者の要望を取り入れた献立は、利用者にも解りやすいよう、1週間の献立を写真入りで壁に掲示し、食事の楽しみに繋がっています。新鮮な野菜や魚・肉類は、業者からその日に届けてもらい、畑で作った野菜や近隣の農家からの差し入れなども料理に活かしています。利用者は「ここは、新鮮な野菜とおいしい食事を出すのがモットー」と話しています。また利用者は、職員と共に和気あいあいとした雰囲気の中、食事をしています。居室で、家族が持参した弁当を水入らずで楽しむ事例もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師と協力してカロリー計算や栄養バランスの管理を実施している。体重、水分摂取量の記録を基に、一人ひとりの習慣や自立度に対応しながら、体調に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自の口腔状態、自立度に応じて、食後の声かけや介助、義歯消毒を支援している。協力歯科医のアドバイスを基に、家族様の希望に配慮しながら、週一回の訪問歯科にて口腔ケア、虫歯治療を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、入居者の身体機能に応じて声かけ・誘導・介助をしている。各居室にトイレが設置されている便利さを十分に活用し、トイレでの排泄を基本とした支援を行いながら、紙パンツ、パッド類を必要に応じて使用している。	排泄記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。利用者の仕草や表情から状況を判断し、声かけや誘導、見守りにより、大半は自室のトイレで排泄するよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握し、誘導・水分補給・散歩・体操などを促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回、ゆっくり浸かりたい、一番に入りたい、熱い風呂がいい等、一人ひとりの希望に添って湯温、時間を決め、ゆず風呂等で季節感を演出している。	利用者は、希望の時間帯や湯加減で週3回の入浴を楽しんでいます。ゆず湯など、季節の行事風呂も実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	状況に応じた配慮を家族様、主 治医とも相談し、気候に敏感に 対応しながら、使い慣れた布団 を使用したり、ラジオを聴きな がら就寝して頂く等、安心して 日中の休息・夜間の睡眠を取っ て頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	薬の効果・副作用の把握と管理 に努め、特に処方変更時におい て職員に説明・指示を徹底し、 症状の変化について詳細に記録 ・報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	ボランティア協力による書道や 唄の鑑賞、地域行事への参加や 、外出・買い物・家事・カラオ ケ・生花・園芸・手芸など、利 用者個々の希望や技術を活かし 、意欲的に役割を持って頂くよ う支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭先に自由に出られるスペースを確保しており、天候のよい日には近隣への散歩や、買い物に出かけている。地域ボランティアの喫茶店に出かけたり、施設の敷地内にて喫茶をすることもある。希望に応じて大阪府内の観光地や商店街、植物園等に少人数での外出ができるよう支援している。	天気の良い日には庭先でお茶を楽しんだり、近隣の団地集会所で開かれているサロンの喫茶に出かけています。食料品などの買い出しは、利用者と一緒に散歩を兼ねて出かける場合があります。思い出の地や入居前に利用していた商店街に行く等、利用者一人ひとりの希望に副って外出する機会を作り、個別外出を支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望、状態に応じて家族様とも相談してお金を所持して頂いている。必要に応じて買い物援助や、金銭を持つ事への安堵感を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者の思いに配慮し、希望が有ればいつでも電話・手紙等で連絡を取れるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作品や、行事の写真を展示し、常に季節行事に合わせた飾り付けを心がけている。水槽で熱帯魚の飼育をしたり、花を生けたりして、季節感や安らぎを感じられるよう工夫している。	事業所の周辺には、山や池、田畑など、季節感のある田園風景が広がり、窓やベランダからも見渡せます。共有空間は明るく、壁面には、季節感がある作品や書道作品、手芸作品、塗り絵、行事写真などが飾られ、レクリエーション道具、書籍などを置いています。また、畳コーナーやソファ、椅子を配置し、利用者の落ち着く場所を確保しています。犬や熱帯魚を飼い、共有空間は温かく、アットホームな雰囲気になっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥にイスを配置したり、数人でテーブルを囲めるようにしている。日中は玄関・庭先に自由に出て、座って過ごせるよう配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に生活していた様子を踏まえて、使い慣れ、親しんだ家具・仏壇・調度品などを配置し、ベッドを置くか、畳を敷いて布団で寝るかも自由に、従来の生活環境に即した生活ができるよう配慮している。	各居室には、トイレと洗面台が付いており、利用者の希望で畳敷きの居室もあります。整理ダンスや飾り棚、座敷机等の家具、仏壇、手芸用の道具や手芸作品、家族の写真、ぬいぐるみ、時計、テレビ等、利用者が思い思いの品物を持ち込んでいます。居室で趣味を楽しむ利用者もおり、居心地良く、過ごしやすい空間になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室からリビングの間に休憩できるソファを置き、リビングから各居室の入口が見渡せ、安全性に配慮している。各自の状態に応じて、リモコンを自由に使えるよう配置し、トイレの表示や浴室の暖簾等、解り易さにも配慮している。</p>		